

第33期第7回理事会議事録

日 時：2006年5月22日（月）18時40分～20時15分
 会 場：つくば国際会議場404会議室（つくば市竹園）
 出席者：廣田、古川、伊藤、岩崎、木田、近藤、里村、住、多田、田中、津田、坪田、中澤、中村（健）、中村（誠）、新野、板東、藤部、松村、三上、宮原、山崎、湯田、以上23名。

書面参加：磯部、宇平、以上2名

その他の出席者：藤谷（大会委員長；第34期役員候補者選挙当選者）、中川（大会実行委員会事務局局長）、近藤、林田、余田（第34期役員候補者選挙当選者）、萩原（本部事務局）

議事に先立って、廣田理事長から、春季大会を担当した気象研究所に対して感謝の意が表明された。

議 事

1. 2006年度総会について

(1) 総会資料の最終確認

総会に提出する議案を最終確認した。

議案1（事業報告）について、会員数は減っているのに通常会員数が大幅に増えているが、そのほとんどが新入会員によるものとの説明があった。

議案5（事業計画）について、秋季大会を担当する中部支部から、大会開催に伴い支部研究会は行わない予定であることが報告された。また用語検討委員会の伊藤理事から、議案には書かれていないが、用語集のウェブ公開を今年度の事業として行うとのコメントがあった。

議案6（予算案）について、特記事項の説明から予算規模が減るような印象を受けるが、数字は増えているとの指摘があった。これに対し、実際に収支規模は減っていないこと、また気象集誌の発刊数減などにより収入減が予想されるため、事務局経費等の縮減で対応するとの説明があった。

(2) 総会参加票の最終確認

総会参加票の回収率が3分の2に留まったことが報告された。これに対し、通常会員の意識を高めるよう理事長から要請があった。また新入会員のほとんどが“通常会員”を選択している点について、入会申し込み資料の説明内容に検討の余地があるとの指摘があった。

(3) 総会進行の確認

当日の進行を確認した。事務局から会場入口での

会員種別の確認方法について説明があった。なお、議案の採決の際には議場を閉鎖せず、退出しないよう協力を呼びかけるに留めることとした。

2. 今後の大会の担当及び準備状況について

2006年度秋季大会の担当である中部支部から、先月に実行委員会を組織したこと、また伊勢湾台風から50年の節目にあたり「台風」をテーマにシンポジウムを行うことが報告された。なお、大会に合わせて開催される研究会や委員会の会場確保のため予定を早めに連絡するよう要請があった。

関東地区連絡会から、2007年度春季大会（担当：東京大学気候システム研究センター）の日程と会場がほぼ確定したことが報告された。また2008年度の春季大会は、海洋研究開発機構（JAMSTEC）の担当とすることが提案され、了承された。

3. 地球惑星科学連合評議会の報告

評議会の議長を1年間務めた廣田理事長から、これまでの活動等について報告があった。その冒頭で近藤理事の関係する「大気化学研究会」が標記連合に加盟したことが紹介された。

現在、気象学会から大会運営、連絡、教育、男女共同参画等の活動に会員を派遣しているが、今回新たに合同大会における主催セッションを提案する“プログラム委員”の要請があり、春季大会との関係を考慮しながら効果的なアウトリーチが行えるよう適任者を推薦したいとの説明があった。

席上、春季大会と合同大会の開催に関して、中途半端に日程が近いとかえって参加・発表しにくいので検討して欲しいとの意見があった。

4. 第34期理事会への申し送り事項の準備について

廣田理事長から各委員会の責任者に対し、第33期の活動における問題や第34期に向けての課題等について、次回理事会までに書面で提出するよう要請があった。

5. 各支部からの報告

北海道支部から、2007年度秋季大会の会場が北海道大学でほぼ確定したことが報告された。

6. その他

住理事から、10月にソウルで開催される第2回日本・中国・韓国気象学会共催の国際シンポジウムの準備状況について説明があった。

日程は10月11日（水）～13日（金）で確定しているため、参加意思のある会員のためにできるだけ早く要綱を周知することとした。

平成18年6月19日

社団法人日本気象学会

議長 多田英夫

署名人 板東恭子

署名人 新野 宏